

子ども総合センターだより

あした

明日もしあわせ通信 (第61号) 令和3年7月号

みんなで育てよう! ~一人で抱え込まないで~



「一番に降りたかったのに〜。

Mちゃんが先に降りた〜。

Mちゃん嫌い。」幼稚園バスで、公園に行った帰りの園庭。

バスから降りないで、すねているS君。順番や数字にこだわり、感情のコントロールがまだまだ苦手。

母親だと、つい「それくらいのことで」と、怒ってしまいがち。先に降りたかった気持ちや負けたつらさを受け止められず、子どもを否定してしまい、無理にでも降ろそうとするかもしれません。

しかし、そこは療育の先生。あの手、この手で気持ちを汲みながら「あっ! S君、お腹すいたね。ごはんの準備を一緒にお願いしていい?」「うん!」バスから降りて、走って教室に向かう。気持ちを切り替える練習。

給食の様子を覗いて見ると、S君とMちゃんが

苦手な野菜料理と格闘しながらも、笑いながらおしゃべりして楽しそう。

大きな集団では難しい子ども達も、小さな集団の中で、笑って泣いて、何気ないたくさん体験が、生活力を高める練習です。

母と子だけで長時間

いると煮詰まってしまう

がちです。煮詰まっ

てしまうことで、親の

ストレス、子のストレ

スが大きくなります。育て方が悪いのではと、母

親は自分を追い詰めてしまいがち。子どもも、笑

顔が減ってしまいます。

一人で抱え込まずに、母親もリフレッシュが大

切です。子育てで疲れた時は、ぜひご相談くださ

い。

(HI)



~はばたき教室(学校に行きにくい子の学びの教室)~

(心のエネルギーが不足していませんか?)



いよいよ1学期の締めくくりをする7月です。子どもたちの中には夏休みを前にして、ふとしたことで心を痛め、心のエネルギーをなくしている子が出てきています。

心のエネルギーとは、子どもたちが外に向けて立ち向かうエネルギーのことです。心のエネルギーは、使ったら使った分だけ減り、補充できなければ動けなくなってしまいます。

心のエネルギーが不足しているときに、「勉強しなさい。頑張りなさい。」といくら言っても引っ張っても逆方向に行ってしまうがちです。

子どもが落ち着いて過ごせる家庭や、自分の好きな場所でエネルギーを充電させてください。子どもはエネルギーがたまると、自分で何かをやってみようという意欲や気持ちが徐々に戻ってきます。例えば、休日に子どもがやってみたいことを自由に取り組ませたり、ゆっくり過ごさせたりするのも一つの方法です。好きなことをすることでエネルギーがたまり、それが自信にもつながります。

子どもたちが自分で心をコントロールし、エネルギーを充電できるように見守ってほしいと思います。

はばたき教室TEL 089-989-5022 はばたき教室 携帯 080-2974-4581

夏休みの思い出

子どもの頃の夏休みの思い出となると、ラジオ体操もその一つです。「新しい朝が来た。希望の朝だ。・・・」とラジオから聞こえてくるラジオ体操の始まりの歌に追われるかのように、眠たい目をこすりこすりしながら近くの集合場所まで走って出かけたものです。首にはラジオ体操カードをかけ、ラジオから聞こえてくる軽快なピアノの音に合わせて体操を行いました。時々、ラジオから威勢のよい号令が響き渡り、同じ時間を過ごしている連帯感のようなものを感じ、その声に励まされながら頑張ったものです。体操が終わると班長さんより判子を押ししてもらえます。班長さんは、高学年の子で、子供心に、判子を押しえらい人と思っていました。その班長さんから判子を押ししてもらえるのが楽しみでした。

3・4前のことです。ホテル近くにある上野公園（東京）に散歩に出かけた時のことです。朝のラジオ体操の音楽に合わせて、老若男女が集い、ラジオ体操を行っていました。そこに通りすがりの旅行者も立ち止まり、ラジオ体操を始めたのです。ラジオ体操第1、第2までみんなで体操をすることができていたのに驚きました。学校教育の賜物でしょうか？

近年、ラジオ体操に陰りが見え隠れしています。夏休み、子どもたちの元気な姿を見かけることが少なくなっているように感じます。

そして、今年もまた暑くて長い夏休みがやってきました・・・。(K・H)



センター長のつぶやき

NHK取材をうけて

6月11日(金)18:10「ひめポン！」で8分間子ども総合センターが紹介された。Nディレクターから突然電話があり訪問を受けた。「命のシリーズ」の一環で子ども総合センターを紹介したい。お断りしたが、結果受けることとなった。

Nさんとの打ち合わせは10回近く、毎回案を持ってこられ編集の方向を決めておられた。7年前の事件の取り扱いに苦慮されていた。構想を練りに練り、取材先に了解をもらい、放送当日でさえ表現の確認など連絡が何回もあった。ディレクターの大変さを垣間見る思いだった。放送直後「見たよ」と電話やLINEの着信音が鳴りやまなかった。感謝。



こんな反響も、Nディレクター、Sカメラマン、音声のTさん、訪問や面談など快くご了解をいただいた皆様のおかげと深く感謝している。ますます子ども総合センターが、子どもたちやご家族の身近な存在であり続けていきたい。(DOIG)

<巡回発達相談>

「だれもしらない」

麻理ちゃんはM特別支援学校の6年生。小さい時の病気がもとで、筋肉の力が普通の人のお母さんの10分の1しかない。歩くこともしゃべることも難しい。学校に行くバスに乗るまでの200メートルをお母さんと二人で40分かけて歩いている。「がんばってね。」と声をかける人もいるが「おぶってやればいいのに。」「あれじゃ日が暮れる。」と言う人もいる。その人たちは麻理ちゃんとお母さんの二人だけの時間を知らない。

児童文学作家の灰谷健次郎さんの短編集「ひとりぼっちの動物園」の中の1作です。

麻理ちゃんはお母さんと歩く200メートルの間で、猫のクロや、ハチのしゃぼん玉ふきや、マツバボタンなどに触れて、満ち足りた気持ちで学校に行くのです。障がいに関わらず、かけがえのない日常を持つ麻理ちゃんに心からエールを送りたいと思います。(A)

伊予市子ども総合センター

伊予市尾崎3-1

伊予市総合保健福祉センター2階

(電話) 089-989-6226

